

第1回豊川市教育振興基本計画策定委員会・議事概要

開催日 令和3年7月2日 午前9時30分～午前11時10分

場所 豊川市音羽文化ホール 大会議室（3階）

出席者 委員長 小林康典

副委員長 片山洋

委員 小澤慎一、立川恵理、加藤悦子、藤原利江、小野泰裕、中村詠子、
神谷美也子、蟹江充子

1 あいさつ

2 委員自己紹介

3 委員長、副委員長の選任

4 議題

(1) 第3期豊川市教育振興基本計画の策定について

(特に意見等なし。)

(2) 現計画の進捗状況について

(特に意見等なし。)

(3) 次期計画の骨子(案)について

(資料3「『第3期豊川市教育振興基本計画』の骨子(案)について」に関して以下のとおり発言等があった。)

①教育を取り巻く社会環境の変化について

「委員」

- スピード感が必要である。SDGsなど実社会における進行のピッチは想像を超えるものがある。社会環境のみならず、価値観の変容に取り残されることなく積極的に展開するとともに、重要な視点として取り組むべき。

②捉えるべき背景や課題について

「委員」

- 「複式編成の回避」とあるが、現在、その心配があるのか。

⇒「事務局」平成31年3月に策定した「豊川市小中学校の規模に関する基本方針」で、本市において、将来的に一部の小学校について、複式学級が編制される過小規模校への移行が見込まれますが、市内の児童生徒を対象とする学校教育の機会均等やその水準の維持・向上の観点から、複式編制を回避する方向で課題解決に向けた対応を進めるとしています。

③基本理念・基本目標・視点の構成（案）について

「委員」

○施策の展開にあたっての視点について、第2期では「質の高い教育の実現に向けた人材、財源の効果的な投入」とあるが、第3期では「質の高い教育の実現」という表現になっている。学校教育に関わる部分で、「人材、財源の効果的な投入」は大変ありがたいので、その視点の継続をお願いしたい。

教育に関して、教職員の努力は当然であるが、教職員の努力義務になるような施策が増えることは心配である。現在、教職員の働き方改革という大きな課題を求められているが、これ以上の努力を求めることは難しい。ただ、新たな視点としての「ICTの活用」や「非常時の学びの保障」は学校現場として努力が必要である。それ以外の部分では、教職員の働き方改革につながるような施策が展開されると良いと思う。

⇒「事務局」事務局案としては、「質の高い教育の実現」という表現の中に含まれているということで削除した。教職員の働き方改革が注目されている中では、「人材、財源の効果的な投入」は非常に重要なことだと思う。その表現は次期計画でも生かしていくように、次回、提案させていただく。

「委員」

○（上記の）委員の発言に賛成です。人材、財源の効果的な投入は、少し締付くなるが、委員としてはあった方が良く思う。

「委員」

○施策の展開にあたっての視点の「地域総がかりでの教育推進」について、「地域総がかり」という表現だと、大まかになり過ぎて、家庭や行政の役割が少し薄くなってしまいうように思える。

④その他の意見

「委員」

- 点検評価委員として、第2期計画の点検評価を実施するにあたり、評価する事業を絞り込んで比重を意識した評価にするようにと提案し、評価する事業数を53事業から各課の重点事業を中心に20事業程度にすることとなった。取り組みに対し、総花的なものではなく比重を意識した評価を行うことは、PDCAサイクルを、より実行的に回すことになると考える。この観点は、基本計画策定においても有効であり、数多くの課題を整理し、施策の展開に当たっての視点作成に活かされるべきである。

「委員」（後日意見書にて）

- 「アンケート調査結果報告書」にある教員に関する自由意見では、保護者の課題改善に対する思いが、一方通行になっている点が散見される。工夫を凝らした研究実施などスキル向上に対する努力が、子どもを通して保護者に伝わっていないのは実に残念。子どもを取り巻く、身近で小さな改善の積み重ねが大切ではないか。そのためにも、教師が子どもと共にある環境の保証が必須であると考えます。殊に人的配置の保証は重要である。

5 その他

（各種事務連絡）

以上